

パナソニックとテスラ、ニューヨークのバッファロー工場で 太陽電池セルとモジュールの生産開始へ

パナソニック株式会社(本社:大阪府門真市、代表取締役社長:津賀一宏、以下、パナソニック)とテスラモーターズ(本社:米国カリフォルニア州パロアルト、会長兼CEO:イーロン・マスク、以下、テスラ)は今週、ニューヨーク州バッファロー工場で太陽電池セルとモジュールの生産を開始することで合意しました。

これらの高効率太陽電池セルとモジュールは、ソーラールーフ以外の製品向けのソーラーパネルの生産に使用されます。また、ソーラールーフの生産が開始する際は、テスラの生産する各種ソーラールーフ用ガラススタイルにもパナソニックのセルが使用されます。また、これらのソーラー製品は、テスラのエネルギーストレージ製品である「パワーウォール」や「パワーパック」とシームレスに統合します。

太陽電池モジュールの生産は2017年夏に開始する予定で、2019年までに1GWの生産能力に拡大します。

テスラとパナソニックが生産を開始すると共に、バッファローの工場はアメリカにおけるテスラの生産基盤を拡大し続け、今後数千人の雇用を生みます。テスラはバッファローで製造業500人以上、合計1,400人以上の雇用を生むというソーラーシティのコミットメントを改めて表明しました。また、パナソニックは、太陽光発電の技術力、製造力を持ち、テスラと協力して、カリフォルニア州フリーモントにあるソーラーシティの施設で、次世代太陽電池技術を開発します。

契約の一環として、パナソニックはバッファロー工場に必要な投資の一部を負担し、テスラはパナソニックから、工場で生産された太陽電池を長期間にわたり購入します。

両社は、今回の提携により、テスラのギガファクトリーにおける電気自動車用電池や蓄電池の生産により構築された関係を、更に、強化、拡大させていきます。

以上

プレスリリースの内容は発表時のものです。

商品の販売終了や、組織の変更等により、最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。